



NEWS LETTER No.56 February 2026

一般社団法人

日本高等教育学会

Japanese Association of Higher Education Research

目次

- ・第29回大会開催にあたって
- ・課題研究
- ・研究紀要編集委員会より
- ・課題研究委員会より
- ・国際委員会より
- ・企画・会員交流委員会より
- ・2025年度第1回理事会報告
- ・事務局より
- ・編集後記

第29回大会開催にあたって

第29回大会を、2026年5月23日(土)・24日(日)の2日間、香川大学幸町北キャンパスを会場として対面開催いたします。大会案内につきましては、すでに会員の皆様にメールにてお届けしておりますが、本ニューズレターでは、大会の見どころとあわせて、参加にあたっての要点をご紹介します。

本大会では、自由研究発表、課題研究、国際委員会主催ランチミーティング、事業報告会など、例年どおり多彩な企画を予定しております。大会初日夕刻には懇親会を開催するとともに、懇親会の時間帯にあわせて、分野や立場を越えて自由に語り合える「交流集会(企画・会員交流委員会しゃべり場)」も実施予定です。研究テーマや所属の枠を超えた対話を通じて、新たなつながりが生まれる場となることを期待しています。また懇親会では、香川ならではのおもてなしや演しものに加え、香川の食も楽しんでいただける企画を準備しております。発表予定のない方にも、研究発表やシンポジウム、交流の場など、さまざまな関わり方でご参加いただける大会ですので、ぜひご参加ください。

大会2日目(5月24日(日)13:30~15:30)には、大会校企画として公開シンポジウム「学びの生活世界とキャンパスの再定義ー生活学習空間・公共空間・地域社会ー」を開催します。高校生や大学生調査をもとにキャンパス観の変遷と現在地を俯瞰する視点、公共図書館・大学図書館改革を通じて生活の場から学びが立ち上がる実践、さらにキャンパスの内外を横断し、街や地域を含めて生活と学びをシームレスに捉える空間的視座を交差させながら、大学と社会の関係をあらためて問い直します。話題提供者として、小林浩氏(リクルート進学総研所長)、森いづみ氏(県立長野図書館館長)、西成典久氏(香川大学経済学部教授)をお迎えし、刺激的な議論を行う予定です。

大会への参加申込および参加費の支払い期間は、2026年1月21日(水)から5月8日(金)17:00までとなっています。また、自由研究発表(一般発表)の申込締切は2026年2月20日(金)16:00、発表要旨原稿の提出締切は2026年3月23日(月)18:00です。参加申込、発表申込の手続きは、日本高等教育学会ウェブサイトの

「大会案内」ページより行ってください。

なお、近年の状況を踏まえ、高松市内および周辺地域では宿泊施設の確保が難しくなることが予想されます。ご参加を予定されている方は、できるだけ早めの宿泊予約を強くおすすめいたします。

多くの会員の皆様に讃岐の地でお会いし、研究発表や議論はもちろん、懇親会や交流集会を通じた対面ならではの交流を深めていただけることを、大会実行委員会一同、心より楽しみにしております。

(第29回大会実行委員長 小方 直幸)

課題研究

前回のニューズレターNo.55においてお伝えした通り、今期2025-26年度の課題研究のテーマは、課題研究Ⅰ「人口減少社会の高等教育」、課題研究Ⅱ「新しいテクノロジーと高等教育へのインパクト」に決定しました。各課題研究の趣旨は下記の通りです。

今年5月の第29回大会(香川大学)における課題研究セッションの登壇者は現在調整中ですので、決まり次第お知らせいたします。

1. 課題研究Ⅰ「人口減少社会の高等教育」

日本社会が本格的な人口減少時代を迎える中、高等教育機関はかつてない転換期に立たされている。課題研究Ⅰでは、人口減少という構造的変化が高等教育にもたらす影響を多角的に分析し、持続可能な高等教育システムの構築に向けた知見を提供することを目指す。

人口減少の問題は、様々な時間的・空間的スケールにおいて捉えることができるが、現に日本社会で起きているのは、日本人の年少世代・現役世代を中心とする総人口の減少という量の変化が、多様性の増大(いわば異質な他者の増加、ライフコースの多様化)という質の変化を伴っていることだろう。そうした中、人々に求められる能力も高度化し、ますます高等教育の重要性が高まることは、2025年2月の中教審「知の総和」答申でも指摘されたところである。

同時に、人口の地域間の偏在(都市集中)が進行し、各地域が自らの将来像を描くことの必要性が提起されている状況においては、「人口減少社会」とはいかなる社会か、人口動態が高等教育のあり方とどう関わってい

るのか、今後の高等教育機関の果たす役割とは何かを検討する上で、「地域から問う」ことはきわめて重要である。

こうした、いわば高等教育にとっては外在的とも言える条件を中心に、幅広い視野からの議論を深めることが1年目の課題となる。具体的には、「人口減少社会」の意味と高等教育の課題を整理した上で、地域の人口動態が高等教育の供給側・需要側にどう影響するか、高校生の人口分布や高等教育機関の地域配置とその変化、地域が主体的に人口減少を乗り越える戦略と高等教育の役割などについて理解を深め、高等教育研究として今後、何を問うべきかを参加者とともに議論したい。

以後、オンライン・セミナーや2年目の大会において、より高等教育に内在的な課題、例えば、高等教育機関の統廃合がもたらす地域への影響、社会人教育・リカレント教育の新たな可能性、留学生受け入れによる地域活性化などのテーマについて検討するとともに、大学・地方自治体における実践事例や海外の事例なども扱っていく。

(担当 朴澤 泰男・飯吉 弘子・福留 東土)

2. 課題研究Ⅱ「新しいテクノロジーと高等教育へのインパクト」

近年、デジタルテクノロジーや AI の急速な発展によって高等教育が大きな変革期を迎えている。課題研究Ⅱでは、デジタル革命の進行や生成 AI の普及がもたらす「知」のあり方の変化を見据え、高等教育システムの構造転換から、具体的な学習環境の再設計に至るまで、2か年にわたり段階的に考察を深めていくことを目指す。

ChatGPT に代表される生成 AI の急速な普及が、職業構造や知識社会の前提を揺るがす中、知識の生産と伝達を本務とする高等教育システムは、その存在意義を改めて問われている。1年目は、こうした技術的発展や社会的背景を踏まえつつ、知識の生産と伝達を本務とする高等教育システムが直面する構造的課題を浮き彫りにし、AI 時代における新たな高等教育を再定義することを試みる。生成 AI の登場によって、ハルシネーション(幻覚)や著作権侵害といった技術的問題に加え、学生が自ら深く考えることを放棄し、思考力が著しく低下するのではないかと、従来のレポートや試験といった評価の妥当性が形骸化し、アカデミック・インテグリティが脅かされるのではないかと、高等教育にとって本質的な危惧も指摘されるようになっていく。かかる状況を踏まえ、生成 AI という単なるツールの利活用にとどまらない根源的な問題、すなわち、AI 時代に人間が学ぶ意義とは何か、高等教育システムはいかに再構築されるべきかといった本質的な問いを立て、理論・制度・実践の第一線で活躍する研究者・実践者に議論いただくことで、新たな高等教育の未来像を描き出すこととしたい。

2年目は、1年目で考察した高等教育現場の状況とマクロなビジョンに対応すべく、大学における「教育」と「学習」のプロセスをどのように再構築するか、それをいかにマネジメントすべきかといった、より現場に即し

た実践的課題に焦点を移す。テクノロジーを活用した個別最適化学習、データ駆動型の教学マネジメント、そして AI と協働できる人材を育成するためのカリキュラム設計など、具体的な実装と方法論を検討する。特に、国内外においてデジタル技術を活用した新たな大学モデルが登場していることにも目配りしつつ、次世代の高等教育モデルを多角的・実践的に構想することを試みる。

(担当 杉本 和弘・大多和 直樹・中島 ゆり)

研究紀要編集委員会より

研究紀要編集委員会では、掲載論文の学術的水準と投稿・掲載論文数の維持および充実をはかりつつ、機関誌の刊行を今後も持続的に進めていくことを目的とした見直しを検討しています。

具体的には、現在編集している第29集(2026年夏頃刊行予定)を一つの区切りとして、その次の第30集(2027年2月末刊行予定)から、投稿・査読・刊行のあり方(投稿機会の設計、公開方法・公開時期等)について、時代状況や研究環境の変化を踏まえた見直しを試みる予定です。内容は、研究の質保証を堅持しつつ、発信の実効性と利便性を高める観点から整理してまいります。

検討内容および関連する手続きにつきましては、パブリックコメントの実施を含め、学会ウェブサイトでの掲示、会員向け一斉メール等、複数の方法で順次ご案内していく予定です。また、学会大会においても、委員会として説明の機会を設け、趣旨と方向性の共有、ならびに質疑・意見交換を行うことを検討しています。

会員の皆様におかれましては、研究紀要編集委員会からの今後のアナウンスにご留意いただき、各種の機会にぜひご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

(研究紀要編集委員長 濱中 淳子)

課題研究委員会より

課題研究委員会では、今年5月の第29回大会(香川大学)で開催する課題研究セッションに先立ち、以下の要領でオンライン・セミナーを開催いたします。

会員諸氏の積極的な参加をお待ちしています。

課題研究Ⅱ「新しいテクノロジーと高等教育へのインパクト」

オンライン・セミナー「生成 AI と高等教育の未来—脅威から共創へ—」

【日時】2026年3月28日(土) 10:00~12:00

【趣旨】

2022年末の ChatGPT の公開以降、生成 AI は瞬く間に社会へ浸透し、現在、高等教育の現場においてもその対応が喫緊の課題となっています。レポート課題における不正利用への懸念といった「リスク」の側面が強調される一方、個別最適化された学習支援や業務効率化といった「可能性」への期待も高まっています。我々は今、この新たなテクノロジーを排除・忌避するのではなく、いかに高等教育の現場に適切に統合し活用していくかと

いう適応のフェーズにあると言ってよいでしょう。

そこで、本オンライン・セミナーでは、生成 AI の基礎的仕組みと最新動向を整理し、実際の授業や学生支援の場面における活用事例を共有することを目的とします。AI が生成する情報の信憑性（ハルシネーションの危険性）、著作権侵害、誤情報の拡散といった倫理問題をめぐる「影」の部分の正しく理解しつつ、教育の質を向上させるための「光」の部分をどう取り入れるのか、今後の可能性について議論します。高等教育の実践において先駆的に生成 AI を導入・活用してこられたお二人の研究者・実践者からのご講演を踏まえた議論を通して、生成 AI と共存するための基礎知識と実践的指針を共有することを目指します。

【登壇者】

- ・松河秀哉氏（東北大学教学共創推進センター准教授、教育学工学）
- ・深澤良彰氏（人間環境大学総合環境学部長，大学 ICT 推進協議会前会長，計算科学・ソフトウェア工学）

【参加申し込み】

Google フォーム (<https://forms.gle/bMox5YYi789wMRdr8>) よりお申し込みください。

（課題研究委員会 杉本 和弘・朴澤 泰男）

国際委員会より

前号（No. 55）のニューズレターでは、国際委員会から当学会と北京大学との国際合同セミナーの企画についてお知らせしました。本年 3 月初旬の開催を目途に企画を続けてきましたが、2025 年末に、先方より企画の停止の申し入れがありました。仮に昨今の政治的情勢の影響であればそれに学会の企画が影響を受けることは本意ではありませんが、本企画がここまで醸成してきたアカデミックな紐帯の韌性を信じ、今後のより豊かな研究交流を期して、当該合同セミナーについては延期を決定いたしました。これ以降の国際合同セミナーの実施については方針を決定次第お知らせいたします。

また、来たる第 29 回大会においては、1 日目のお昼休みの時間に、国際委員会主催のランチミーティング「国際交流よろずラウンドテーブル：Laidback International Exchange Roundtable」を下記の要領で開催します。

日時：2026 年 5 月 23 日（土）12:10～12:55

参加費：無料

申し込みフォーム：<https://forms.gle/Tc8FG9LciMaDG3p79>

問い合わせ：森 利枝：rmori@niad.ac.jp

ランチをお持ちになってお気軽にご参加ください。お茶とスナックの用意もあります。飛び入り歓迎ですが、可能な限り 5 月 15 日（金）までに上記フォームよりの参加申し込みをお願いします。会場は追ってお知らせします。

（国際委員長 森 利枝）

企画・会員交流委員会より

日本高等教育学会第 29 回大会（香川大学）で試行する新企画「しゃべり場」についてご案内いたします。

大会初日の懇親会では、懇親会初参加の方、学会経験の浅い方、研究職でない方も気軽に交流できるスペースを用意します。企画・会員交流委員の若手委員（懇親会デビュー者）が中心となり、楽しく、今後の学会活動にもつながるような場を作るための準備を進めています。参加を少し迷っている方や、知り合いがいなくて不安な方も、この機会にぜひ懇親会に足を運んでみてください。

（企画・会員交流委員会 元濱 奈穂子・真鍋 亮・木村 弘志・高見 英樹・中島 英博・中井 俊樹・深堀 聡子）

2025 年度 第 1 回理事会報告

一般社団法人としての 2025 年度 第 1 回理事会が 2025 年 9 月 13 日（土）9 時 30 分から 11 時 10 分まで、（株）ガリレオ学会業務情報センター 東京オフィス内を主会場とするオンライン方式で開催され、以下の事項が審議・報告された。

議事録

1. 開会宣言

吉田会長より、本日の理事会については、Web 会議システムを利用して開催する旨の報告がなされ、出席者の音声と画像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることが出席者全員により確認された。また、吉田会長は、本学会が一般社団法人に移行したことから、定款の規定より、吉田会長を議長に理事会を開催することを宣言した。

2. 理事会の成立確認・議事録署名人の指名

吉田会長は、本日の理事会が、法人化後の定款案 39 条に定められている理事会の定足数を満たしていることを確認した。また、定款 43 条に基づいて会長と出席監事が、議事録署名人となることが確認された。

3. 前回議事録について

資料 1 に基づき、学会としての前回議事録について確認された。

4. 本法人の設立・定款について

白川事務局長より、資料 2-1、2-2、2-3 に基づき、一般社団法人日本高等教育学会の設立経過が報告された。特に、法人の定款に関しては公証人役場での認証を受け、一般社団法人としての設立登記が 2025 年 8 月 18 日に完了しており、同日を以って本法人が設立したことが報告された。

5. 議題

〔決議事項〕

第 1 号議案 一般社団法人日本高等教育学会会則について

吉田会長および白川事務局長より、資料 3 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会会則の案が示された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 2 号議案 一般社団法人日本高等教育学会代議員選挙規則について

吉田会長および白川事務局長より、資料 4 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会代議員選挙規則の案が示された。審議において、濱名副会長より、多選制限について、法人設立後から対象となるか、任意団体からの経過を加算して考えるのか質問があった。白川事務局長より、任意団体から加算することが想定されていること、吉田香奈理事から、今後扱いを明確にするために附則で明記することを考えることが伝えられた。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 3 号議案 一般社団法人日本高等教育学会役員候補者選出規則について

吉田会長および白川事務局長より、資料 5 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会役員候補者選出規則の案が示された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 4 号議案 一般社団法人日本高等教育学会役員候補者選出細則について

吉田会長および白川事務局長より、資料 6 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会役員候補者選出細則の案が示された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 5 号議案 一般社団法人日本高等教育学会経理規程について

吉田会長および白川事務局長より、資料 7 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会経理規程の案が示された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 6 号議案 一般社団法人日本高等教育学会旅費規程について

吉田会長および白川事務局長より、資料 8 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会旅費規程の案が示された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 7 号議案 一般社団法人日本高等教育学会入退会規程について

吉田会長および白川事務局長より、資料 9 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会入退会規程の案が示された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 8 号議案 一般社団法人日本高等教育学会研究紀要編集委員会規程について

吉田会長および白川事務局長より、資料 10 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会研究紀要編集委員会規程の案が示された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 9 号議案 一般社団法人日本高等教育学会課題研究委員会規程について

吉田会長および白川事務局長より、資料 11 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会課題研究委員会規程

の案が示された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 10 号議案 一般社団法人日本高等教育学会大会支援委員会規程について

吉田会長および白川事務局長より、資料 12 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会大会支援委員会規程の案が示された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 11 号議案 一般社団法人日本高等教育学会国際委員会規程について

吉田会長および白川事務局長より、資料 13 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会国際委員会規程の案が示された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 12 号議案 一般社団法人日本高等教育学会広報委員会規程について

吉田会長および白川事務局長より、資料 14 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会広報委員会規程の案が示された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 13 号議案 一般社団法人日本高等教育学会企画・会員交流委員会規程について

吉田会長および白川事務局長より、資料 15 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会企画・会員交流委員会規程の案が示された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 14 号議案 一般社団法人日本高等教育学会総務・理事会支援委員会規程について

吉田会長および白川事務局長より、資料 16 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会総務・理事会支援委員会規程の案が示された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 15 号議案 一般社団法人日本高等教育学会事務局規程について

吉田会長および白川事務局長より、資料 17 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会事務局規程の案が示された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 16 号議案 一般社団法人日本高等教育学会の 2025-26 年度運営体制について

吉田会長および白川事務局長より、資料 18 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会の 2025-26 年度運営体制について提案された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 17 号議案 日本高等教育学会の会員・財産・負債・権利・義務の継承について

吉田会長および白川事務局長より、資料 19-1、19-2、19-3 に基づいて、一般社団法人日本高等教育学会が、日本高等教育学会における第 28 回大会時の定期総会(2025 年 6 月 1 日)の決議を背景に、任意団体としての日本高等教育学会の会員・財産・権利・義務の一切を継承する

ことが提案された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 18 号議案 2025 事業年度事業計画・予算について

吉田会長より、資料 20-1、20-2 に基づいて、2025 事業年度事業計画・予算が提案された。審議において、小方理事より、学会大会は 85 万円の予算の範囲内で参加費等を徴収しつつ実施するという理解で良いか確認がされ、白川事務局長より、そのように想定していることが回答された。濱中理事より、学会誌について予算計上がされているが現在の予定では 2026 年 4 月刊行は困難であることが伝えられた。白川事務局長より、学会誌の刊行が事業計画に含まれているので予算を計上していること、計画に変更が生じた場合は事業計画を代議員総会で修正する対応を想定していることが伝えられた。杉本理事より、予算における積立金の拠出（25 年度だけの項目）の位置付け、また積立金の使途について質問がなされた。白川事務局長より、積立金は一度拠出すれば、次年度以降は予算の費目として計上しないこと、積立金は何らかの事情で経常予算が枯渇した場合に緊急的に使用することや今後の周年記念事業での使用することなどを想定していることが伝えられた。濱名副会長より、積立金については、毎年の予算・決算で多額の余剰金があることは一般社団法人としては望ましくないことから、積立金として通常の予算とは別枠としているという理解で良いかと確認がされた。白川事務局長より、その理解で差し支えないことが伝えられた。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 19 号議案 事務局事務の委託について

白川事務局長より、資料 21 に基づいて、事務局事務の委託が提案された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 20 号議案 入退会者（2025 年 6 月から 8 月）について

白川事務局長より、資料 22 に基づいて、入退会者（2025 年 6 月から 8 月）の承認が提案された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 21 号議案 企画・会員交流委員会の委員の追加について

白川事務局長より、資料 23 に基づいて、企画・会員交流委員会の委員の追加が提案された。審議ののち、本議案は、挙手による採決に付され、賛成多数で承認された。

第 22 号議案 その他

議長は、その他の議決事項の有無を出席者に確認し、議決事項がないことを確認した。

〔報告事項〕

1) 業務執行理事による業務執行状況についての報告

1-1 会長報告

吉田会長は、前回理事会以降の会務運営について、会長として会務運営全体をみてきたことを報告した。

1-2 副会長報告

濱名副会長は、吉田会長の会務運営を補佐するとともに、担当委員会の検討状況を確認してきたことを報告した。

1-3 事務局長報告

白川事務局長は、法人化手続きなどを進めたこと、詳細はのちの事務局報告において報告することを発言した。

2) 設立時社員総会報告

吉田会長および白川事務局長より、資料 24 に基づいて、本理事会に先立って開催された第 1 回社員総会員の決議事項が報告された。特に、設立時社員総会の終了とともに、全ての設立時社員が辞任するとともに最初の代議員が就任したことが報告された。

3) 代議員総会で定める規程（一般社団法人日本高等教育学会入会の基準に関する規程）について

白川事務局長より、資料 25 に基づいて、定款に基づき、代議員総会で定める規程として、一般社団法人日本高等教育学会入会の基準に関する規程を準備していることが報告された。

4) 各委員会・事務局からの報告

4-1 研究紀要編集委員会

濱中理事より、資料 26-1 に基づいて、研究紀要編集委員会の活動状況、検討状況が報告された。

4-2 課題研究委員会

杉本理事より、資料 26-2-1、26-2-2 に基づいて、研究紀要編集委員会の活動状況、検討状況が報告された。

4-3 大会支援委員会

木村理事より、口頭で、大会支援委員会の活動が報告された。

4-4 国際委員会

森理事より、資料 26-3 に基づいて、国際委員会の活動状況、検討状況が報告された。

4-5 広報委員会

阿曾沼理事より、資料 26-4 に基づいて、広報委員会の活動状況、検討状況が報告された。

4-6 企画・会員交流委員会

濱名理事より、資料 26-5 に基づいて、企画・会員交流委員会の活動状況、検討状況が報告された。

4-7 総務・理事会支援委員会

吉田香奈理事より、資料 26-6 に基づいて、総務・理事会支援委員会の活動状況、検討状況が報告された。

4-8 事務局

白川事務局長より、資料 26-7 に基づいて、法人化について事務局の対応状況が報告された。小方理事より、以前、ゆうちょ銀行で口座を作りガリレオに管理を任せていること、これらの口座も今回解約等を進めるのか確認があった。白川事務局長より、任意団体としての既存

の口座は法人設立に伴いすべて廃止していく方針であることが伝えられた。

5) 第 28 回大会について

木村理事より、資料 27 に基づいて、第 28 回大会の参加者数・決算等が報告された。

6) 第 29 回大会について

小方理事より、口頭で、第 29 回大会の日程、準備状況が報告された。あわせて、小方理事より、大会実行企画委員会が企画するシンポジウムと課題研究委員会のテーマが重ならないようにしたいことが伝えられ、課題研究については、テーマについて確認があった。杉本理事より、課題研究委員会から報告したテーマがほぼフィックスしたものであることが伝えられた。

7) ニューズレターNo. 55 について

阿曽沼理事より、資料 28 に基づいて、ニューズレター No. 55 の構成と今後の進行予定について報告があった。

8) 今後の理事会開催予定の変更について

白川事務局長より、資料 29 に基づいて、今後の理事会開催予定の変更が報告された。

9) その他

①定款の一部修正について

白川事務局長より、資料 30 に基づいて、代議員総会において定款の一部修正を想定していることが報告された。

②法人化後の会計処理ガイドについて

白川事務局長より、資料 31-1、31-2、31-3 に基づいて、法人化後の会計処理ガイドが報告された。

6. 閉会宣言（会長）

議長は、予定した議題の審議・報告が終わり、他の審議事項がないことを確認の上、本理事会の閉会を宣言した。閉会時間は、11 時 10 分であった。

注：法人としての正規の議事録は、法令に基づき、議事録署名人の記名押印ののち、本法人の主たる事務所に保管しています。また、代議員総会の議事録は議事録の確定後、ニューズレターに掲載予定です。

事務局より

1. 2025 年度会費の納付について

2025 年度の会費について、一般社団法人化への対応のために振込用紙の発送が遅れておりましたが、法人として新たな振込口座が開設されましたので、下記の通り、ご案内いたします。こちらに、直接、会費の支払手続きをいただくことも可能です。

郵便振替口座 00220-7-118534

（他行からのお振込み：当座 ○二九店 0118534）

口座名義（加入者名）一般社団法人 日本高等教育学会

また、学会ウェブサイトを通じたオンライン決済での会費納付もあわせてご利用可能です。ご都合の良い方法をご利用ください。なお、新口座による振込用紙は、未納付の会員の方には 1 月末に発送いたしております。

2. 大会時の「事業説明会」について

一般社団法人に移行したことに伴い、これまで大会時に行なっておりました会員による議決機関としての「総会」はなくなり、その機能は、会員の皆様による選挙によって選出された代議員によって構成される「代議員総会」に移行しました。大会時には「事業説明会」として、法人としての事業報告・事業計画、予算・決算等を会員の皆様に報告いたします。事業報告会は、本法人の在り方にご意見いただく機会となりますので、これまでの総会同様に、多くの会員の皆様のご参加をお願いいたします。

3. 任意団体の決算報告について

前回のニューズレターにおいて、「一般社団法人への移行により、任意団体としての日本高等教育学会は 8 月 17 日付で解散となった。任意団体の 2025 年度予算に対する決算は、次号にて報告する。」としておりましたが、決算報告については準備の関係から改めて報告させていただきます。

編集後記

前回のニューズレターは、法人化関係の記事が多かったため、大部なものになりましたが、今回は通常に戻り、比較的分量が少なくなりました。内容も大会前ということで、大会関係のものが中心になりました。なお、詳しい大会情報は学会ウェブサイトに掲載されていますので、併せてご参考いただけますと幸いです。

（広報委員会）

一般社団法人日本高等教育学会ニューズレター No.56

発行日 2026 年 2 月 10 日

編集 一般社団法人日本高等教育学会広報委員会

発行 一般社団法人日本高等教育学会

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-39-2-401

（株）ガリレオ 学会業務情報化センター内

一般社団法人日本高等教育学会事務局

E-Mail: g005jaher-mng@ml.gakkai.ne.jp